関連学会印象記

Microcirculation in circulatory disorders

（1987年8月1日～8月2日，大阪）

岡田和夫*

これは第7回世界微少循環学会のサテライト・シンポジウムとして開催された会で，大阪の国立循環器病センターの曲直部寿夫総長を主催者として行われた．8月1日，2日の2日間にかけ循環異常を招いた時の微少循環を深く討議する会であった．特別講演が6題で Zweifach (Microvascular basis of disease), Gaehtgens (Microvascular flow disturbance: Rheological aspects, 西ドイツ), Johnson (Microvascular regulation: Its disturbance in disease, アメリカ), Lübbers (Oxygen delivery and microcirculation in brain, 西ドイツ), Smaje (Microvascular permeability: Its disturbance in disease, イギリス), Oka (Microcirculatory dysfunction in an environment of weightlessness, 日本）のようである．

かねてから著書，雑誌でみている Zweifach, Lübbers などの講演が直接聴ける機会が持てたのは非常に有益であった．最新の知見も含めての含蓄のある講演と言えるものであった．

シンポジウムは "Multiple organ failure" と "Gastroenterological disorders" の2つが初日に組まれていた．前者の MOF（多臓器不全）を微少循環の面からとりあげたシンポジウムはこれまであまりみられず，DIC の提唱者の Hardaway, rheology を中心に発表したオーストラリアの Dintenfass, 免疫，pharmacokinetics などを微少循環と関聯させたスエーデンの Lewis, 臨床の立場から Macro-and microcirculation のMOF での問題点をまとめた西ドイツの Messmer などの参加があり，これに国立循環センターを中心にした日本からのすぐれた発表などが加わり，もり上った内容のシンポジウムであった．国循の各分野からの参加者が各自の専門分野から MOF に熱心にとりくんでいる姿は印象的であった．2日目には "Cerebral ischemia and hyperemia", "Myocardial ischemia" と "Ischemia of peripheral tissues" の3つのシンポジウムが持たれた．最初のシンポジウムは朝から夕方までつづき，後の2者が午前，午後と分れていた．脳虚血，又は hyperemia では脳循環の測定法の進歩，生化学的アプローチの進展に伴って発表が数多くなったのであろうが，日本からの優れた数多くの発表がみられ，おしなべて英語としての発表方式もしっかりしているし，討論も外人と対等に行なっているのには感心した．神経内科，脳外科分野からの発表であるが，活性酸素，EDRF など最近のトピックスに関する発表もみられた．

"Myocardial ischemia" のシンポジウムは心筋虚血に関して従来トピックになっているテーマがとりあげられていたが，日本からの発表者の内容も決してみおとりしなかった．

初日の最後に "Methodology for microvasucular disorders" というワーク・ショップが持たれた．これはポスター展示をして，その後で司会者のもとで数分口演して討論という形で行われた．細胞内レベルの研究から赤血球変形，凝集，微少肺血管径の測定，脳循環での虚血又はショックでの病態など多方面にわたっていた．Lübbers などがわざわざ聴きにきているのには驚いたが，和気に富んだ雰囲気なので若い研究者には貴重な suggestion もしてもらっていた．参加者同志が腹をわって話しあえたよい企画のシンポジウムであった．この内容は Springer 社からまとめて出版されるときいているが，この上梓が待たれる次第である．

*帝京大学医学部麻酔科

Presented by Medical*Online